

ほあげ通信

Sephiroth



Vol.1 CONTENTS

- | | | | |
|-----------|-------------------------|------|------------------------|
| P. 2 | ともちゅん活動報告 | P. 3 | 「ともちゅんホームページ」の作成に参加して |
| P. 4 | 世界デザイン発見から自分デザイン発見へ | P. 5 | ズボラニアン・ウェイク (3)「あ〜なんだ」 |
| P. 6 | 未知の音は明日の道 (3) | P. 7 | 放置自転車啓発業務について |
| P. 8 | 八重山諸島・波照間島へ行く kahoさん応援記 | P. 9 | 「MOVIE WORK」を担当して |
| P.10～P.11 | せふいろと・あらかると | P.12 | せふいろとアクセスマップ |

●●ともちゅん活動報告●●

「ともちゅん」って？ 福祉事業所のネットワーク「なにわともあれ☆ねっと」のイメージキャラクターです。
ぼちぼちライフ推進委員会の会長も務めています。



★平成 25 年度のイベント参加について。「なにわともあれ☆ねっと」では、7月27日「社協パラダイス」10月19日「福祉ふれあい広場」11月30日「リバティまつり」に出店。
他、ともちゅん単体では、「日本橋ストリートフェスタ」「生協こどもフェスティバル」「スプリングフェスティバル」にも参加しました。



アプリ「ともちゅんリバーシ」。ともちゅんHPからスマホにダウンロードできるので遊んでみてね！

★コンテンツ開発にはたくさんのメンバーさんが関わっています。平成 25 年の 9 月からブログ・ツイッターができ HP も独自に作成しました。その中で「ともちゅん物語・漫画・ネットラジオ放送・施設取材・ともちゅんソング・アプリ(リバーシ)」などのコンテンツを開発しています。グッズ販売・チラシ・名刺などの広報物もデザインをみんなで考えて作っています。



イベントの様子や告知はともちゅんブログから
<http://ameblo.jp/naniwa-tomochun/>



みんなでデザインしたともちゅん缶バッジ
(ストラップタイプもあります)

★毎週火曜日に「ともちゅん会議」をして今後の活動や企画を考えています。最初は、パネルやぬいぐるみだけだったのが、平成 26 年 3 月 7 日、ついにみんなと遊べるともちゅんになりました。そして 26 年度の活動へと繋がっていきます。ともちゅんにみんな興味シンシンです。今年の 7 月 27 日の社協パラダイスにも参加します。これからのともちゅんの活動をお楽しみに！

ともちゅんの HP では活動紹介の他、ネットラジオ放送もしています。さらに、ともちゅんと一緒に働いてくれるマネージャーを募集しています。

★出演依頼もこちらから★

<http://www.sp-nagare.com/tomochun/>

●●「ともちゅんHP」の 作成に参加して●●

浜田敏男

せふいろとの利用も早 4 年目に突入しました。利用するうちに自分でホームページを作りたいと思いはじめました。最初の1年目は悪戦苦闘の日々で、いつ諦めてもおかしくない状態が続きました。HTML の言語は英語ですし、理屈もとんと理解できませんでした。ですが、この3年で「デザイン・画像加工・コーディング」と色々学びながら、いくつかHP を作成(ほとんどは公開されてませんが)しながら頑張っていました。

そんな時、せふいろと発のゆるキャラ「ともちゅん」のHP を作成することになり、「デザイン・画像加工・コーディング」など自分が出来ることは率先してやっています。

ここで「ともちゅん HP」の説明を軽くしておきます。このHP はタブレット・スマートフォンなどでも閲覧できるよう新しい技術を使っています。例えば、オレンジ色の枠(グレーの影付き枠)などは画像を使わずCSS3 (デザイン言語) で設定しています。

初めて使う技術が多く、なかなかすんなりとはいきませんでしたし、こんなに多ページを作るのも初めてだったのですが、結構良いものが作れたと思います。これからも周りの方と協力してさらに良いものにしていきます。



浜田さんが参加してせふいろとで制作した「ともちゅんオフィシャルホームページ」



浪速区社会福祉協議会 からの仕事

浪速区社会福祉協議会から25年度2回目の仕事依頼をいただきました。平成25年10月19日に行われた「第21回・福祉ふれあい広場」というイベントのポスターとチラシの作成です。最初、せふいろと内でデザインコンペをして、最終的に坂根さんと浜田さんの作った2種類のデザインを社協へ提出。その結果、選ばれたのは浜田さんのデザインでした。そこから、さらに2種類の色味をデザインし、3回ほどの校正を経て、9月5日に完成しました。

今回のこの仕事を通じて、デザインカやイラストレーターの技術がレベルアップしたとの声もありました。これからも、切磋琢磨して仕事に取り組んでいけるような依頼が増えていくといいと思います。

〈その他の制作作品〉

- ・浪速区社会福祉協議会内のデイサービスセンターのチラシ
- ・宍道そば祭りチケット ・名刺作成

●●世界デザイン発見から自分デザイン発見へ●●

北川 聡

今年の1月よりデザイン講習を週1度行っています。タイトルは「世界デザイン発見」。毎週参加者はデザインの課題をこなすとともに、日常にあるデザインを発見し発表する。デザインとはせまい意味では設計の形態、図案や模様計画、レイアウトすることをいいます。広い意味では、人間の目的をもった行為、より良い形で整えるための計画も意味します。デザインの対象は広告にとどまらず衣服、工業製品、建築。さらには、都市や人生計画にもおよびます。世界には、人が意図的にデザインしたものが存在しています。デザイン発見では、このデザインという観点を身に着け、日頃から身の回りのデザインされたものに目をやり、なじみのないデザインという言葉をも身近に感じるようになることを目標の一つにしています。

デザイン発見では、デザインについて自分が感じたことを語る時間があります。このデザインは、どこがいいのだろうか。自分はこのデザインのどこに魅かれたのだろうか。ただ考えるだけではなく、講習で参加者は他の参加者を前にして語ります。聴者側の参加者は、この人が持ってきたデザインのどこがいいのだろうか、この人はこのデザインのどこに魅かれているのだろうか、ただ考えるだけではなく、発言者に対して質問をします。デザインに関する議論は、寄り道をしながらも、前に進んでいきます。

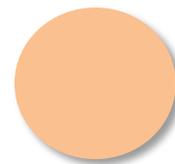
デザインという行為を理解する事と共に、実際にデザインの課題をこなす必要もあります。デザイン発見の、初めの課題はデザイン福笑いというものでした。広告に載せる文章、素材はあらかじめ用意されており、参加者はその文章と素材を福笑いのように配置し、形を整え完成させていきます。一週間かけて作り上げたものを、それぞれ発表することにより参加者同士がよい意味での刺激となり、よりよい作品を生み出していき、デザインに対して、まったく興味がなかった人も自然とデザインできるようになっていきました。

デザイン発見の参加者は、世界のデザインについて語り合うことにより、世界が私たちに送っていくメッセージを少し理解できます。解釈は、解釈を生み、時には迷路に迷うときもありますが、その迷いも私たちが前よりもよりデザインを発見するために必要なことなのです。自分がなぜこのようにデザインし

たのかを語るために思考すると、自分がデザインという行為での目的が見えてきます。自分がデザインすることの目的を理解すると、自分のことが前よりも深く理解できます。同様に他者のデザインという行為での目的を理解することにより、他者を前よりも深く理解できます。他者がなぜこのようなデザインを作り上げたかについて耳を傾けると、他者のデザインにおける目的が分かってきます。他者のデザインの目的を知ることにより、他者をより深く理解することができます。

デザインという行為を理解し、多様なデザインや考えを理解すると、世界が広がります。そして、デザインという行為をどこか遠くの誰かの営みとしてとらえるのではなく、自分自身の目的をもった行為でもあるという認識を持って取り組むことも重要です。

「世界デザイン発見」を通じて「自分デザイン発見」へと向かい、世界と他者と自分について新たな発見のきっかけになればと思います。



「世界デザイン発見」を通じて、制作されたともちゅんチラシ。

●● ズボラニアンズ・ウェイク(3) 「あ～なんだ」 ●●

坂根匡宣

釈迦の十大弟子の一人に阿難(アナンダ)という人物がいる。手塚治虫の漫画では、阿難は生れた時に悪魔(マーラ)から洗礼を受け、大泥棒の殺人鬼として登場するが、出家した後は、悪党で情緒不安定だからか、釈迦がずっと側に置いて修行をさせていた。歴史的事実は不明だが阿難は様々な経典で多聞第一(たもん・だいいち)と称され、最も釈迦の説法を聞いた人物だというのは間違いないようだ。

人を支援するにあたって差をつけるつもりもないのだけでも、この阿難のように、子どもの頃から心的外傷が積み重なり、非常に情緒が険呑な利用者がいるとどうしても人情からか特別に気になってしまう。自分は釈迦とは天と地どころか比べられる分際ではないが、そうした利用者を阿難という人物(手塚治虫のブツに登場する)と重ね合わせてみてしまい、自分の気持ちの置き所をよくするために側に置きたくなる。

しかし、当たり前だけでも、釈迦のようにはいかない。

複雑な心的外傷をもつ利用者の中には、突然失踪したり、順調に生活が改善していく途中で事業所を退所してしまう利用者がいる。別に支援が失敗した訳でもなく、本人も事業所で支援されることが不快なわけではないのに、合理的な理由では説明がつかない辞めかたをする。それは、利用者も辛いだろうが支援者も辛い不条理だ。

不条理なことも解釈するのが支援者としての性でいたしかたなく仮説をたててみる。

いろんな人間関係がつねに同じ結果になる人がいて、多かれ少なかれその傾向はだれにでもある。S・フロイトは不快な経験を反復してしまうことを「反復強迫」と言った。フロイトは三回結婚して、三回とも夫を死ぬまで看病するはめになった女性の事例を紹介している。おそらくその女性は「もうすぐ死病に取り憑かれそうな男」を選んで結婚しているのである。

フロイトはさらに、人は生きるための本能、つまり「生の欲動」だけでなく反して「死の欲動」があると「快樂原則の彼岸」という本に書いた。「生きたい気持ち」と「死にたい気持ち」は無意識の中で葛藤しているのだ。

不条理な退所には、常にこの「死の欲動」の「反復強迫」が

つきまとう。子どもの頃からずっと背負っている多くの負の経験。彼らの心の中は人生の空しさで満ちている。生活が安定すればするほど反して空しさが肥大化し限界になると、空虚な自分から抜け出すために死に近づくことによって生を獲得する欲動にかられる。

最終的に支援が「生きる」方向に進めば、彼らは死に近づきたくなくて事業所を退所してしまうわけだ。

今後、彼らにとって、自ら選んだ道が幸せな道なのかどうかはわからない。ただ、人はどんな道であろうと、自分で選んだ(とおもわされている)道歩むしかない。自分で選んだといっても、自分が選んだのではなく、様々なしがらみがそうさせたかもしれないのに。

我々支援者は(「反復強迫」と言われようが)呻吟する。彼らが阿難のように釈迦のような信頼のおける師に出会ってくれることを願いながら。。

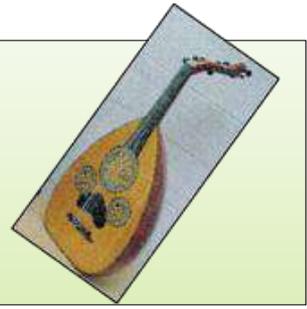


「西区堀江の高齢者食事サービス」にて(p.11 参照)。

左から北川、牧、坂根。

●●未知の音は明日の道 3●●

加藤吉樹



「自分らしさ」って何なんでしょうね。「自分らしさ」を表に出すとか出さないとか、生かすとか殺すとか、磨くとか無くすとか。その前に自分で自分のことをどこまで分かっているんだらうか。などなど。日々、演奏をしていると「自分らしさ」ということを意識しない訳にはいかなくなります。なぜか・・・？

それは、どうがんばっても他人にはなれないからです。世の中には本当に素晴らしい音楽が、一生かけても聴ききれないほど、たくさん存在します。その中にはカッコいいな～と憧れ、こんなやりたいな、と思わせてくれる音楽も数多くあります。でもいざ自分がやってみると、全く同じものは出来ないし、ある程度真似てきたとしても、その音楽が持っている本質的な魅力をとらえられていなくて、結局全然面白くない、全くの別ものが出来上がるという具合です。やはり、自分なりのものを作るしかないんですよね・・・。どうやって？

それが分からないから苦労します。やり方も自分なりに探していくしかないんですよね。こうやったら確実に自分の音が出来上がる、という方法は無いんです。もしあったとしたら、今すぐ僕が知りたいです。だけど、他の人が考えたやり方を自分のやり方にうまく生かすことはできません。他の人の参考になるかどうか分かりませんが、僕なりのやり方を少し書いてみようと思います。

僕が「これが自分の音だ！」と初めて自覚出来たのは、いわゆる普通のリズムやメロディ、曲というものが無い、即興演奏というものを頻りにやり始めた頃でした。ギターを演奏し始めて15年。ずっと自分の音が分からなくて悩みつづけてやっと出会えた自分の音。喜びは半端なかったです。どんな音かは言葉で説明するのはなかなか難しいのですが、やり方だけを言うと、演奏する前にどういう演奏をするか、全く計画を立てずに演奏をするということです。

当時の僕にとっての重要なテーマは、「演奏するたびに自分がどんな演奏をしたのかを記憶しないこと」でした。なんでやねん、経験を積んでどんどん向上していかんかいっ！と思われられるかもしれませんが、向上していくことよりも、もっと大切なことが当時の僕にはあったんです。

即興演奏をしていると奇跡のような瞬間が訪れます。誰も予想しなかったような絶妙なタイミングで音がぴったり合ったり、聴いたことのない音の重なり方、音色、スピード感など、演奏している本人にとっては、これ以上ないような喜びや驚きに出くわします。当然、もう一度その音を出したいという欲望にかられます。ですが、一度うまくいったことを同じようにやろうとしても、うまくいったためしかなかったんです。どこかで聴いたことがある音というのは、結局誰かのコピーでしかない。今まで聴いたことのない、新しい音。それがまさに当時の僕にとっての「自分の音」でした。ということは、以前自分の出した音を出すということも「自分の音」ではなくなるということになります。既に聴いたことのある音は、かつての自分のコピーでしかない、今の自分自身にとっての正直な音ではない。ということで、自分が以前どのように音を出したのかを記憶しておくということは、新たな音を作っていく上で邪魔なことだったんです。へたに覚えていて、そのときには必要じゃないのに、それをまたやりたくなるし。

当時はもしかすると、以前やったことと同じことをやっているのに、自分が記憶していないので、「新しい音だ」と感じていたことが多々あったかもしれません。でも、それはそれで良かったと思います。大切なのは、その音を出している瞬間に、自分がどこまで新鮮な気持ちでいられるか、用意したネタをただ繰り出すということはせず、今の自分の気持ちに正直でいられるか、ワクワクしていられるか、ということだからです。そうすることで、先ほど言った奇跡の瞬間に出会える可能性が出てきます。

今ではいわゆる「普通の曲」を演奏していても、学んだ技術や知識を記憶していても、その当時に会ったこの感覚を保ったまま演奏しています。実は両立できることだった、ということに後に気づきました。そういう気持ちで演奏していると、同じ曲を演奏していても、新たなアイデアがどんどん浮かんでいきます。でも、それをその場でやろうとしても、なかなかうまくいかないんです。浮かんだイメージをその瞬間に形にしていきたい。そのために日々の練習があるんだよなあ、と思っています。

●●過去＋未来＝今●●

By Plecostomus

僕たちは毎日立っていた。暑い日も寒い日も雨の日も風の強く吹く日も立っていた。僕たちは、4年前から放置自転車啓発業務に取り組んできた。今年度も放置自転車啓発業務に取り組んでいる。仕事をしていると、いろいろな人に出会う。いろいろなことを言われる。「何でとめたらアカンねん！」「とめたらアカンのはお前らの勝手やろ！」「うっさいなあ！」このように罵倒されることも多い。このような人たちに対して僕はこう思っていた。そりゃそうだ。買い物に行くのに店から遠い駐輪場にわざわざお金を払ってとめるなんて馬鹿げている。とめたらいけないところを勝手に決めて自転車の利便性と自由、権利を奪っている。

僕はいつものように駅周辺の放置禁止区域で啓発指導員のジャケットを着て立っていた。出来るだけ自分の心を摩耗させない様、業務的な声掛けを行っていた。狭くて一人一人がやっと通れそうな歩道の自転車整理をしていた時、おばあさんに言われた。「自転車がいっぱいとまっていた危ないね～。この前、ここの道で自転車とぶつかりそうになったんよ。あんたらご苦労様やね～。ありがとう。」その時、心が動いた。自分の心臓がバクバク鼓動するのを意識した瞬間だった。今までこの仕事をしてきた中で、僕の心は荒んでいたのだと思う。今日はどんな汚い言葉を掛けられるのだろう。今日はどうか平和に1日が終わりますようにと。そんな風に考えながら仕事をしていた僕は、役に立っているんだ。おばあさんに感謝されたんだ。八つ当たりされて罵倒されてなんぼの仕事だと考えていたが、このおばあさんの言葉に心打たれた。正直嬉しかった。嬉しさだけじゃない。僕が啓発したり自転車整理することによって、通行人の安全にも寄与しているのだと気づけた。その時、僕の今までの考えが翻った。利便性と自由を享受出来ているのは自転車を利用している人だけであって、他の人には多大な迷惑をかけた危険な状況を作り出しているということ。

ルールは守らなければいけない。なぜ守らなければいけないか考えなかったら、知らなかったらそれはただの束縛でしかない。しかし、ルールにはエビデンスがある。そのエビデンスを知ったとき人は納得する。しかし、納得できないエビデンスに基づいたルールはただの押し付けでしかない。放置禁止区域は全くの前者である。

この瞬間から、僕は自分の仕事にやりがいを感じる。長い時間、立ちっぱなしでの仕事で大変ではあるが、この仕事に意味を見いだせた今、僕はこれからも放置自転車啓発業務に取り組む。

「今日は暑くてしんどいけど頑張ろうっと」遊歩道の小さな樹の枝葉から、木漏れ日が僕を照らしていた。



●●放置自転車啓発業務について●●

平成23年・24年度に引き続き、25年度も西成区3ヶ所（花園町・天下茶屋・岸里）駅周辺の放置自転車啓発業務に取り組みました。VONでは引き続き岸里の業務を手伝ったり、地域の清掃活動も行いました。

平成26年度は、浪速区での放置自転車業務に1年の空白を越え再び取り組むこととなりました。JR難波駅・南海難波駅・オタロードの3ヶ所に立ち、自転車放置禁止区域に自転車を止めようとする人を注意し、駐輪場に止めてもらうよう促す仕事です。緑色の帽子とジャケットを着て、持ち場を守ります。上の文章のように、自転車を使っている人たちには文句を言われることもありますが、地域の人がお互いに配慮しあって住み良い街を作るためにも、私達は日々業務に取り組んでいます。

*VON=Voice of Nishinari（西成の声）

●●八重山諸島、 波照間島へ行く●●

西岡明彦

せふいろとに通い始めてからもう1年半近くになるだろう。大阪市立中央図書館の帰り道にぶらりと立ち寄って、それ以来のことである。うつ・引きこもりの私にとって、せふいろとはとても有り難い。調査や取材、編集などの仕事をやらせてもらっているが、何せ、うつ・引きこもりなので大したことは出来ない。数年前には、これにアルコール依存で3点セット。さすがにアルコールはやめたが、以後、甘党になり、過食になり、メタボリックで喘いでいる。最近、腰痛、股関節痛、膝痛に痛風まで加わった。

そんな体調不良、精神状態不調の中、何とか悪循環を断ち切ろうと、つい先日、沖縄・八重山諸島の波照間島まで出かけた。LCCのピーチ航空のバーゲンで、関空～石垣間が片道5、6000円だった。が、安いのには営業努力というか、それなりに理由がある。関空の第2ターミナルからの出発は早朝7時30分。乗継バスに乗らなければならないので、自宅を6時前には出なければならない。昼夜逆転をしている身には至難だったが、何とか本当にギリギリ間に合った。

次の心配事は天候で、沖縄の週間天気予報は私の予定の期間、ずっと雨マークだった。ここ1～2年、どこかへ出かける度、天気に恵まれないのですっかり「雨男」になったと覚悟はしていたのだが、これも幸いにも現地は晴れていた。一応、梅雨のシーズンに入っているのだが、沖縄の天気は変わりやすいし、



いずれも波照間島にて撮影

八重山は沖縄本島からさらに400キロ以上離れている。泳げない私だが、誰もいない海辺で一人ピチャピチャしたり、寝そべって太陽に当たったり、静かなゆっくりとした「島時間」を過ごすことができた。

しかし問題は大阪に帰ってからのことである。いつもどこかに出かける度、帰ってから体調や生活のリズムを崩している。うつ・引きこもり・依存（過食 e t c.）はなかなか手ごわい。それで、それでも旅へ行く。懲りない話なのである。

●●kahoさん

応援記●●

高橋精将

80年代の歌手だった河合奈保子さんの楽曲を、約3年前に YouTube で聞いてから河合奈保子さんのファンになりました。そんな河合奈保子さんの娘さんが昨年2013年秋に本名の歌保（かほ）ということから kaho としてデビューしました。



Kaho さんのデビューライブが日頃大相撲をやっている東京の両国国技館で行われるということで、実際に行ってライブを見て来ました。フジテレビ系列でやっていたドラマの堀北真希さん主演のミスパイロットというドラマのエンディング曲の「Every Hero」など4曲を演奏されていて、客席から見守ってました。ラジオに1回出演されていたので、放送時間前に自宅のパソコンの前に待機して録音しながら聞いたりしてました。まだ15歳ということで学業優先ということなので、テレビやラジオに登場する機会は少ないと思いますが、今後も kaho さんの応援をしていこうと思っています。

ちなみに、関西空港から就航しているLCCのPeachの航空券を予約して、今回行った東京の他にも福岡などにも出かけて行ったりしています。6月には北海道に行ってYosakoiソーランまつりを見に行こうと思っています。

●●「MOVIE WORK」を担当して●●

高橋精将

1. 文化のつどい2013

(動画編集・USTREAM 配信管理)

2013年の西区民まつり文化のつどいは西区民センター・こども文化センター・土佐稲荷神社の3ヶ所で行われました。そこで実験的に3ヶ所で行われているプログラムの様子を集約して、USTREAM で中継先を変えながら配信をすることになりました。3つのUSTREAM アカウントを活用し2ヶ所のプログラムを同時にモニターし、舞台転換時や休憩時に動いている方の映像をセレクトしながら2元中継を行いました。また、3ヶ所で撮影した動画を1本化する動画編集も行いました。複数の場所で撮影された映像を時系列に並べて編集するのに苦労しましたが、何とか形になったので良かったと思いました。



ピンゴゲーム風景

2. そよかぜまつり2013 (動画編集)

2012年のそよかぜまつりの撮影と編集作業に引き続き、2013年も同様に私が撮影して編集することになりました。今回も動画の編集とDVDプレイヤーで視聴出来るように、動画データをDVD用のデータに変換してDVDに書き込む作業まで一貫して担当させて頂きました。3時間程度の素材を編集する作業の中で、同じシーンを繰り返し見ながらカット編集をするなど根気の必要な作業が続きましたが、実際にDVDに仕上がってみると達成感があり、細かい作業の繰り返しが重要だと再認識しました。依頼して下さった方に実際に視聴してもらい、「良い出来だったよ」と言ってもらえた時には、喜んでりホッとしていたりしています。



そよかぜまつり・オープニング

3. 日中韓合作紹介動画 (動画編集)

以前、西成区の大衆演劇場やジャズライブの紹介PV動画を制作しましたが、引き続き動画の制作の依頼があり、撮影と編集作業を行いました。今回は撮影から納品まで短期間で仕上げなければいけなかったのですが、だいたいのカット割りなどを事前に聞いていたので、編集作業もスムーズに行えて納品期限に間に合いました。動画のストーリーの流れとイメージがマッチングした時に瞬発的に編集作業が進んだりしていますので、編集作業が楽しいと思えるシーンがいくつか出来てきました。



取材撮影風景 (高橋)

●●せふいろと・あらかると●●

報告・担当 富田森絵

浪速区広報誌「なでしこ」 ポスティング業務

せふいろとの新しい仕事として、浪速区の広報誌「なでしこ」を新聞未購読世帯に配るという業務があります。月末に「なでしこ」が大量に送られてくるので、それを封筒に入れ、住所のラベルを貼り、月初1日～3日までに浪速区全域にポスティングをするというものです。配布数は毎月変わりますが、だいたい3000部ほどです。封入した後の仕分け作業をしっかりとしないと、いざ配るときに2度手間になったりして慌てることとなります。（最初の月ではそれが起こってしまいました）。

メンバーさんも職員も、この期間は手伝える人は総動員で作業に取り組みます。せふいろとの中では珍しい内職風景が広がります。封入・ポスティング共に作業中は何も考えなくていいのでリフレッシュできていいのかなと思いますし、そんな声もちらほら聞きます。月初に雨の日が当たってしまうと最悪なのは目に見えているので、それだけが怖いところです。



せふいろとのイベント

平成25年度のせふいろとのイベントは8月の焼肉イベント、1月の新年会、2月の懐メロ演奏会の3本です。今年度はどこかハイキングにも行きたいけれど……。

●●焼肉会●●

焼肉会はせふいろとではおなじみの「玄」という芦原橋駅近くにある焼肉店に行きました。70分食べ放題で1000円という破格の値段で美味しいお肉が食べられるだけあって、いつも賑わっているところです。せふいろとはお盆休みがないので、景気付けに8月14日、みんなで行って来ました。

●●新年会●●

～ソウルミュージック・ぱーちい～

1月23日に開かれたソウルミュージック・ぱーちいでは、せふいろとで鍋を作っておいしくいただきました。しかし今回のメインは鍋ではなく「音楽」。我こそは！というメンバーさんが持ち曲を1つ決めてこの日のために練習してきました。魂の歌を聴かせる日とあって、皆さん気合入っていました。



●●西区堀江 高齢者食事サービスにて●●

～牧さんインタビュー～

2014年2月、堀江小学校で高齢者食事サービスのイベントがあり坂根・北川・牧さんの3人が演奏をしました。今回は牧さんにインタビューを試みました。

——イベントの企画があがって1週間という短い期間の中、同年代の人に馴染みのある懐かしい曲を5曲、牧さん自身が選んで、練習10時間ぐらいで何とか弾けるようになったということですが、イベントの当日はhowでしたか？

牧 お客さんが自分より少し上の人だったので安心しました。本番はかなり大きな声でみんなが歌ってくれたので、和やかな気持ちになった。音楽でコミュニケーションが図れている実感があり、今後また企画があればやりたいと思う。

——ご自分の障害について話す場面もありましたね。

牧 今は元気で、いつ病気になるかは分からない。自分は経験者の立場で語った。病気になり障害を負ったとしても諦めないでいれば良くなることを伝えたかった。

——今回、苦労されたことは？

牧 脳梗塞の影響で一度覚えたフレーズでも思い出せない時があったり、ひとつ間違ったりするとパニックになり、スムーズに弾けなくなる。でも脳梗塞で体が思うように動かなくなっていたのが、リハビリによってギターが弾けるようになったこと自体が非常に嬉しいこと。

*「西区堀江 高齢者食事サービスにて」写真：p.5掲載

大阪市交通局の仕事

石野田さんインタビュー

①交通局のお仕事って？ 駅の出口の見回りで、人が出入りするところの邪魔にならないように誘導したり、注意したり、放置自転車に絵符をつける仕事です。

②お仕事をしてみたの感想は？ 人の目を感じる。夏は暑く、冬は寒い。他人から何の仕事かと聞かれる。他人から道を聞かれる。いろいろ。人の目を気にせず他人がちょっかいをかけてきてもスルーするか受け流す。水分は適度に取り。

③これからの希望は？

1年後か2年後か、慣れたら5日間フルで自転車業務をしたい。でも夏は苦手なので、自転車業務はお休みしています。



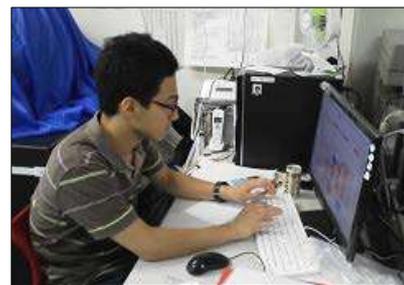
自己紹介

渡辺洋祐

平成26年4月からせふうろとでお世話になっております渡辺洋祐です。これまでは病院や福祉施設で働いていました。福祉を志したきっかけは昔から人の話を聞くことが好きで、それを仕事にしたいと考えたことです。仕事で関わる方は自分ない経験をされてきた方です。そういった方の支援をさせていただくことで自分を成長させることができ、それがまた違う方への支援に役立てることができると考えています。

せふうろとは明るい雰囲気であり、WEB・放置自転車啓発・街づくりなど様々な仕事をしています。そういったところに魅力を感じ入社を希望しました。せふうろとでは利用者の方が安心して仕事に打ち込めるように、また色々な仕事にチャレンジできるようにお手伝いできたらと考えています

まだまだ未熟者ですが、頑張っていきますのでよろしくお願い致します。



「マクドナルドはドーナツである」

重光善一

マクドナルド (Mc Donald) は文字の綴りがケッタイな形になっている。すごくグロテスクである。

グロテスクって言葉は空洞 (クウドウ) って言葉に韻が似ている。 Mc Donald. 名前の中に Dona (どーな) が入っているでしょ？

どんなかな？ 色々なバーガーがあるから興味しんしん。しんしんと言えば、上新庄の喫茶店で読んだ新聞記事に「マクドの品質が下がったため売上が落ちている」と書いてあった。なるほど、マクドのハンバーガーは中身が空っぽ (品質が悪い) だから、空洞になっているんだ。

「空洞」と「喰うドーナツ」は一緒の発音でしょ？それにドーナツは中心が空洞になってるでしょ。

だからマクドナルドはドーナツですわ。



せふいろとアクセスマップ

【分室ができました！】

平成 26 年 2 月から南堀江にせふいろとの新オフィスができました。近くには図書館もあり、利便性が良いです。主に WEB コーディングやデザイン・アプリ開発などを仕事にしている人が来ています。せふいろとのわちゃわちゃとした雰囲気とは対照的に、静かで集中できる環境が整っています。毎週水曜日にデザイン発見（講習）、木曜日は WEB 会議もしています。



【せふいろとの日常】

6月某日、「せふいろとの木」を大阪市の職員が伐採しにきました。「全部切らないで～」というみんなの願いが届いたのか、半分残されてホッとしています。



伐採を見守る「ともちゅん」

株式会社 ソーシャルプランニング流

《社会福祉サービス事業部・営業部》

● 就労創造センターせふいろと(就労継続支援 A 型)

〒556-0021 浪速区幸町 2 丁目 4-15 マナベハイツ桜川 101

● 就労創造センターせふいろと 分室

〒550-0015 大阪市西区南堀江 3 丁目 12-21 旭ビル 3 階

● 共生労働センターカサンドラ(就労継続支援 B 型 就労移行支援)

〒550-0005 大阪市西区西本町 2-5-19 東海建物西本町ビル 311

<http://www.sp-nagare.com/>

Mail : sephiroth@sp-nagare.com

TEL : 06-6562-7735

Mail : kasandora@sp-nagare.com

TEL : 06-6535-7300